

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年7月2日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870102183		
法人名	株式会社 伊藤建設		
事業所名	グループホーム ひかり	ユニット名	A棟
所在地	〒310-0914 茨城県水戸市小吹町267-43		
自己評価作成日	平成25年1月25日	評価結果 市町村受理日	平成25年6月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0870102183-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年3月19日	評価確定日	平成25年6月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

残存機能を大切に、少しでも長く自立した生活が送れるような支援に努めています。
地域の盆踊りには浴衣を着、お化粧をして出かけますが、普段は見せない表情を見せてくれます。
沢山の自然の中で、季節を感じられるような行事や食事を楽しみ、職員共々笑顔で生活できるよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者の癒しとなるよう事業所内でセラピー犬を飼っているほか、近隣にある牧場や羊を飼っている家を訪問できるよう支援している。
年間行事計画を立てて桜まつりや紫陽花見物、苺狩り、ドライブなど、毎月様々な外出支援を行い、利用者が楽しく生き生きとした生活ができるよう努めている。
毎月の誕生会で寿司の出前を取ったり、雛祭りやクリスマス会、正月などの行事食は職員の手料理を取り入れ、利用者の楽しみとなっている。
職員の人事異動が少ないため、利用者は馴染みの職員による支援を受けることができ、精神の安定につながっている。
職員は利用者との日々の係わりの中で表情やしぐさから思いを汲み取るとともに、その人に合った生活ができるように支援し、利用者との信頼関係を築いている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で情報交換を密にし「利用者 のい立場になってお世話させていただきその人らしさを大切にします」を基にした介護を実践している。「ご家族との交流」は職員が毎月生活状況報告書を送付してる。ボランティアを利用し「地域社会との交流」を実践している。	「利用者の立場になってお世話をさせていただきます。その人らしさを大切にします。ご家族との交流を深めます。地域社会との交流を目指します。」との事業所独自の理念を開設時に全職員で作成している。理念を確認できるよう事務所の出入口の壁に掲示するとともに、職員は毎朝の申し送り時に理念を唱和して共有を図り、実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	フラダンスやリハビリ体操のボランティアを利用したり、町内の盆踊りや近隣施設の催しに参加している。買い物や散歩を通して地域の人々と積極的に交流している。毎月福祉理容師の方に来ていただき、利用者の意思で散髪を行っている。	利用者は天気の良い日には散歩に出かけ、近隣住民と挨拶を交わすとともに、近隣にある牧場や羊を飼っている家を訪問しながら地域の人々と交流している。フラダンスやリハビリ体操のボランティアが定期的に来訪しているほか、利用者は職員と一緒に町内の盆踊りや他法人のグループホームの秋祭りに出かけ、踊ったり地域の人々と食事をして交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	なかなか難しいが、運営推進会議の際に参加者からの質問に答えたりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を二カ月に一回開催し、利用者へのサービス提供状況や生活状況を報告し、出た意見をサービスの質の向上に活かすとともに、その結果を生活状況報告書や広報誌で家族に報告している。委員には議事録を送付している。	運営推進会議は市職員や長寿会会長、他法人のグループホーム職員などで2ヶ月に1回開催し、会議録を作成している。会議では事業所の活動報告をしているほか、流行しているインフルエンザやノロウイルスについて、手洗いやうがい徹底し、職員が事業所にウイルスを持ち込まないよう対策を話し合っている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は運営上の問題や疑問が生じた場合は市に出向いたり電話などでアドバイスを得ている。運営推進会議の時等にも、疑問点等を話題にし、話合っている。介護相談委員を受け入れている。	市担当者が運営推進会議に出席しているほか、管理者は日頃から市担当者に運営上の問題を相談してアドバイスを得るなど、話し合いを密にして協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	“身体拘束排除宣言”用紙を掲示し、申し送りや会議を通してケアの仕方を考案している。玄関においては、目前に道路があるため中からの手動スイッチにて対応している。その他、裏口二か所においては自由に入出りが出来るよう段差部分には手摺を設け、夜間以外は開放している。	身体拘束廃止に向けたマニュアルを作成するとともに、マニュアルを基に研修会を実施しており、職員は禁止の対象となる身体拘束の具体的な行為と弊害を理解している。 事業所は交通量の多い道路に面しているため玄関を施錠しているが、2ヶ所ある裏口からは庭に自由に入出りができ、利用者は外気浴やボール遊びなどを行っている。 月1回の全体会議で玄関の解錠に向けた話し合いを行い、「チャイムの設置」など対策を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議時に研修をしたり、申し送りの際気が付いたことや質問に答え、学ぶ機会を持っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している方はいない。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に沿って説明し、疑問点や不安なことについてはその都度、理解・納得するまで説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に第三者機関の苦情相談受付窓口を明記するとともに意見箱を設置している。家族の訪問時や電話の際、不満や要望、意見を聴いている。出された意見はその都度申し送り帳を使用し全職員に報告している。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記している。 毎月家族等に請求書を送付する際に「ひかりだより」と「生活状況報告書」を同封して利用者の日頃の様子を報告し、家族等の意見や要望が出易くなるよう努めている。 管理者は家族等の面会時にさりげなく話しかけ、意見を聴いたり、相談をしてもらえるよう努めている。 介護相談員を受け入れ、利用者が外部者へ意見等を表せる機会を設けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、申し送りや職員との会話を密にし意見や提案を聴く場を設けている。月一回全体会議を行い業務改善・意見交換をし、出た案を反映させている。	管理者は月1回全体会議を開催し、職員の意見や要望を聴く機会を設けるとともに、申し送り時に職員が気軽に意見や提案を出せる雰囲気づくりに努めている。 管理者は不満や苦情を出し難い職員的心情に配慮し、現在無記名のアンケートの実施に向けて準備中である。	予定している職員への無記名のアンケートを実現させ、今後も年1回程度継続して実施するとともに、出た意見等を運営に反映させることを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休や勤務体制、職員配置など職員間の環境に配慮した環境整備に努めている。また、研修や講習に参加する機会を設け、技術や知識の向上心を持ってもらえるよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの力量の把握に努め、研修への参加を働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域の同業者と意見交換を行うとともに、運営推進会議や近隣施設の催しに職員も参加することで意見交換や情報交換の場が設けられサービスの質の向上が期待できる。また、施設内ではあるが会議を通して勉強会、意見交換の場を設け質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の話しを傾聴し、安心して頂けるような声掛けに努め、不安にならないよう、しばらく傍らに職員が付くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や契約時に不安なことや心配な気持ちをしっかり受け止め、少しでも安心して頂けるよう時間をかけてお話しするよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・ご家族の意向を職員間で共有し、安心して生活して頂けるような支援に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のように食事を共にし、お互い助け合いながら生活することにより信頼関係が築け、支え合って共に生活できるようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月手紙や写真でホームでの様子がわかるように伝えている。来所時にも現状を報告し、ご家族と情報を共有し、共に支えることのできるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人の来所時には、居室にてゆっくり過ごせるよう支援している。	利用者の家族等や友人の来訪時には、利用者の居室でゆっくり過ごせるよう案内をしている。 毎月顔馴染みの理・美容師が散髪に訪れることができるよう職員は連絡調整をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月誕生会やお楽しみ会、AB合同でレクをしたり、席決めの際も本人の希望や関係性を把握し支援している。ADL状態に応じて、お茶や食事の配膳など職員見守りの中、利用者間で助け合い関わり合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、家族から相談があれば支援に努めている。他施設に入所された方の所へ、仲の良かった方と一緒に会いに行ったりしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者との関わりの中から不満や要望を見出し、日誌や会議を通して利用者の思い・意向を職員全員で把握できるよう努めている。食事・外出・居室の空間など、希望に答えられるよう努めている。	職員は基本情報から利用者の生活歴を把握するとともに、日々の支援の中で利用者のしぐさや表情から思いや意向を把握して申し送り時に話し合い、全職員で共有している。 意志疎通の困難な利用者の場合は、利用者に寄り添って日々の行動や表情から汲み取り、利用者本位の支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との関わりやケース記録などから職員が情報収集をし、背景を把握するよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録を基に日々の様子や変化を見逃さないよう努めている。気づいたことはささいなことでも、職員間で共有するようにしている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中での様子や利用者、ご家族の意見を聞き、話し合い作成している。	介護計画は利用者の日々の生活状況や支援経過記録に基づき、職員や計画作成担当で話し合って作成している。 3ヶ月毎にモニタリングを実施するとともに、6ヶ月毎に介護計画を見直している。 入居時にアセスメントをしているが、その後利用者の状態の変化に応じたアセスメントを実施するまでには至っていない。	再アセスメントを行うとともに、職員や計画作成担当で話し合い、利用者のニーズにそった介護計画を作成することを期待する。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録と共にケアプランをカードックスを用いて閲覧しやすいようにし、プランに沿ったケアができるようチェック表を作り、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況や要望に応じた生活を継続し、重度になっても安心した生活を送れる環境を確保している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人会会長の方に運営推進会議に参加していただき、情報を提供していただいている。リハビリ体操やフラダンス等地域の方のボランティアなどで利用者が楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による月1回の往診と歯科医の往診を受け入れている。利用契約時に受診を希望する医療機関を確認している。かかりつけ医がある場合は職員が通院支援をしている。	管理者は契約時に利用者や家族等が希望するかかりつけ医を確認するとともに、受診の際には職員が通院を支援し、受診結果は電話などで家族等に報告をしている。 協力医療機関の医師による月1回の訪問診療のほか、希望により訪問歯科診療を受診することができ、利用者が適切な医療を受けられるように支援をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師がいないため、気になることはその都度協力医療機関へ連絡し、必要に応じて往診などお願いしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、手術日は管理者が家族と共に付き添い、情報交換や相談をしている。こまめにお見舞に伺い、病院関係者との情報交換を密にし関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ看取りの支援体制ができていない。	重度化や終末期に向けた事業所の対応方針を定めておらず、今後の方針を職員や医療関係者と話し合うまでには至っていない。 事業所として看取りの支援体制はできていないが、管理者は今後利用者の重度化や終末期に向けて対応していく方向で検討中である。	職員や医療関係者と話し合い、重度化や終末期に向けた事業所の対応方針を定めて明文化するとともに、家族等に説明して同意を得ることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルを作成し、会議などで研修を行い、対応できるようにしている。救急救命の研修にも参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自動火災報知機、スプリンクラーを設置するとともに災害対策マニュアルを作成し、消防署と連携して年2回避難訓練を実施している。食料・飲料水を備蓄している。	避難訓練を年2回実施するとともに、水消火器による消火訓練を行っているが、夜間を想定した避難訓練を実施するまでには至っていない。 運営推進会議を通して避難訓練に近隣住民の参加を呼びかけているが、実現するまでには至っていない。 避難訓練後は課題を話し合い、記録に残している。 災害時に備えて飲料水やレトルト食品、乾パンなどを3日分程度備蓄している。	避難訓練に地域住民の協力が得られるよう引き続き運営推進会議で参加を呼びかけるとともに、夜間を想定した避難訓練を実施することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮したケアや記録に努め、記録等の個人情報事務所に保管し情報漏れがないよう配慮している。全職員が守秘義務を理解し、契約書を交わしている。	職員はプライバシー保護に関する内部研修を受講するとともに、基本情報から利用者一人ひとりの生活歴を把握し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。 管理者は職員に対し、「トイレ誘導は小声で行うこと」や「必ずトイレの戸を閉めること」を徹底指導し、利用者のプライバシーに配慮した対応をしている。 個人情報に関する書類は事務室の書棚に保管し、取り扱いには十分に注意をしている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の難しい利用者には、思いを伝えられるような言葉掛けを心掛けている。	/		/	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、職員は利用者一人ひとりのペースや体調に配慮するとともに、利用者のその時の気持ちを尊重し希望に沿って支援している。				
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月の散髪は本人の意思を尊重し髪形を決めている。可能な場合はコーディネートも利用者本人に決めてもらっている。				

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は職員と一緒に会話をしながら食事をしている。毎月の誕生会やお楽しみ会では、お寿司等の出前を頼み、特別メニューを提供している。野菜を切ったり、準備や後片付けなども、できる利用者にはお手伝いして頂いている。	職員は利用者と同じ食卓を囲み、食事が楽しめるよう声かけや食事支援をしながら一緒に同じ食事を摂っている。 利用者はできる範囲で職員と一緒に野菜を洗ったり、切ったりしているほか、配膳や下膳の役割を担っている。 日曜日は利用者の好みを聴いて食事作りをしたり、レストランなどで外食を支援している。 毎月の誕生会は寿司の出前を取ったり、雛祭りやクリスマス会、正月などの行事食には職員の手料理を取り入れており、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量共、個人記録にて毎日チェックされ、食事量など減っている際は主治医に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員介助により利用者の状態に応じて口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を基に、トイレで排泄できるよう声掛け、誘導を行っている。	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、タイミングを見計らって声かけやトイレ誘導をしているほか、利用者のサインを見逃さないよう見守り、トイレで排泄ができるよう支援している。 排泄チェック表の活用や職員の見守りにより、リハビリパンツ使用から布パンツ使用に改善した利用者が数人いる。 夜間は居室にポータブルトイレを置き、利用者の排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量に配慮し、毎日リハビリ体操を行い運動不足の解消に努めている。毎日ヨーグルトを提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に毎日入浴できるよう支援している。入浴拒否があった際は、時間をずらして促している。気の合う人同士で浴槽に入り歌を唄ったり話したり楽しめるよう支援している。	職員は利用者一人ひとりの体調を確認し、基本的には毎日入浴ができるよう支援している。 仲の良い利用者同士で入浴ができるよう支援し、利用者は歌を歌って入浴を楽しんでいる。 女性の利用者には同性の職員が入浴支援をするなど、羞恥心に配慮している。 入浴を拒む利用者には時間をずらして声かけをしたり、清拭で対応するなど、無理のないよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後のお昼寝タイムを設けているが、基本的には利用者の意思を尊重し、いつでも自由に休息してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カーデックスの個人のページに、薬の作用・副作用が一目で分かるように記載されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は利用者の生活歴を把握し、得意なことやできることを見出して役割を担ってもらうことで、その人らしい生活を過ごせるよう支援している。買い物や調理、裁縫の得意な利用者には見守りのなかお願いしたり、イベント時の飾りつけをしてもらっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調や気候、時季に配慮しながら散歩したり近隣の公園や畑に出て近所の人と交流している。また、家族と外出することもある。	利用者は天気の良い日は職員と一緒に散歩に出かけ、近隣の公園などに立寄って地域住民と挨拶を交わしている。 年間の外出計画を立て、毎月公用車で桜まつりや苺狩り、植物公園見学、紫陽花見物、ドライブなどの外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しいものがある時は出来る限り利用者の要望に応じている。近くのスーパーに買い物に行き、レジでお金を渡し、支払いをしていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内に公衆電話を設置し、要望に応じて支援している。ご家族より何か送られてきた際には、ご本人からお礼の電話をするような支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を飾り、毎月手作りカレンダー・壁画の飾りつけをし季節感が出るよう工夫している。施設内にウッドデッキを設け、机と椅子を用意し、安心して気軽に外で休息できるよう工夫している。	居間兼食堂は広く明るい空間となっているほか、玄関や居間にソファや椅子を配置し、利用者同士がゆったり過ごせるよう工夫をしている。 玄関に季節の花を飾ったり、観葉植物を配置している。 利用者が外気浴をしながら寛げるよう、中庭のウッドデッキにテーブルと椅子を配置している。 廊下やトイレ、浴室は広く清潔に保たれているほか、廊下やトイレ、居室の温度は一定に保たれ、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテーブル配置は気の合う利用者同士で座ってもらい、編み物や会話、トランプなど思い思いに過ごせるよう工夫している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持って来られる方は少ないが、花壇の花を飾ったり、家族の写真や絵、好きなぬいぐるみを置くなどして、居心地よく過ごせるよう支援している。	管理者は利用者や家族等に馴染みの物品を持参してもらうよう説明している。居室にはカーテンやエアコン、ベッド、洗面台、整理箆筒が備え付けられている。利用者は居室に使い慣れた箆筒やテレビ、ラジオ、家族の写真などを置き、自分らしい部屋づくりをして思い思いに居心地よく過ごせるよう工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動できるよう手摺を設置し、居室がわからなくなってしまう方には名前を付けている。箆筒にはそれぞれ何をいれるのかわかるようにラベルを付けている。			

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームひかり

作成日 平成25年6月30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	26	再アセスメントを行う。	定期的にあセスメントを行う。	再アセスメントを行い、利用者のニーズにそった介護計画を作成する。	1 ヶ月
2	35	夜間想定した避難訓練を実施するとともに、近隣住民と協力体制を築く。	夜間想定した避難訓練の実施	近隣住民へ事前説明をして参加して頂く。	1 ヶ月
3	11	意見を出し難いスタッフの心情に配慮し、意見を汲み上げる。	意見を出しやすい環境をつくる。	アンケートの実施。	3 か月
4	33	利用者の重度化や終末期に向けた事業所の対応方針を定める。		役所を交えて話し合った結果、看取りは行わないことになりました。	
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。